

PM5D V2 ファームウェア

主なアップデート内容

Firmware V2.27

Improvement

- 生産工程での検査品質向上のため、アップデートを改善しました。
* V2.26 をお使いのお客様が V2.27 にアップデートされても問題はありませんが、追加される機能はございません。
- [注意] ※出荷時にファームウェア V2.27 がインストールされている本体を購入されたお客様は、V2.26 およびそれ以前にダウングレードしないで下さい。ダウングレード処理が途中で停止する可能性があります。(復帰にはファームウェア V2.27 を再度インストールして下さい。)

Firmware V2.26

修正した不具合

- MY16-AT カードを装着した場合、カードのチャンネル 9~12 からまれにホワイトノイズが発生することがある不具合を修正しました。
- PM5D と AD8HR を接続して起動したとき、AD8HR がまれに AD824 として認識されてしまうことがある不具合を修正しました。
- EVENT RECALL の実行中、EVENT LIST 画面にある EVENT RECALL の PREV/DIRECT/NEXT ボタンを連続して数回クリックすると、トップパネルの状態とディスプレイの表示が一致しなくなる不具合を修正しました。
- ミキサーなどとカスケード接続しているとき、CASCADE 画面にある CASCADE ENABLED/DISABLED ボタンの設定が電源を入れなおしても保持されるように変更しました。

- PREVIEW モードでシーンをストアしたときに入力したシーン名が PREVIEW モードを抜けたあとでストアする際も自動的に表示されてしまう不具合を修正しました。

注意

- DME CONTROL 画面で、以下の DME のコンポーネントは選択しても機能しません。また、これらのコンポーネントを表示させるとほかのコンポーネントが正しく表示されなくなります。その場合は接続をやりなおしてください。

Matrix Mixer 4 x 8

Matrix Mixer 4 x 16

Matrix Mixer 8 x 16

Matrix Mixer 8 x 32

Matrix Mixer 16 x 32

Matrix Mixer 16 x 64

Matrix Mixer 24 x 24

Matrix Mixer 32 x 64

Firmware V2.25

修正した不具合

- インプットパッチライブラリーとアウトプットパッチライブラリーで、同じ GEQ モジュールを挿入するライブラリーをリコールするなどして、挿入アウトに同じポートを同時にパッチしようとする、画面表示と信号処理が一致しなくなる不具合を修正しました。
- PM5D 起動時にフェーダー設定に問題が検出された場合に、Fader Calibration 画面が表示されない不具合を修正しました。
- PM5D に接続された外部キーボードから、現在リコールされているシーン番号と同じ数字を入力すると、次のキーを押したときにそれまでに入力された数字がクリアされてしまう不具合を修正しました。たとえば、シーン 012 がリコールされた状態でシーン 123 をリコールしようすると、「1」「2」がクリアされてシーン 003 がリコールされていました。また、外部キーボードでシーン番号の入力を間違えたときは、<.>キーを押すと値をクリアして入力し直すことができます。

修正した不具合(カスケード接続時)

- PM5D 同士をカスケード接続している場合、CASCADE LINK 設定の DCA LEVEL/MUTE がオンになっている DCA グループをリコールセーフまたはセレクトイブリコール機能でリコール操作から除外しても、カスケードマスターからのシーンリコール操作からは除外されない不具合を修正しました。
- PM5D と DSP5D をカスケード接続して、PM5D のパネル操作の対象として DSP5D を選択している場合、以下のような条件が重なると、選択しているチャンネルとその隣のチャンネル以外のメーターが振れない不具合を修正しました。
 - チャンネルストリップのメーターとトップパネル上部のメーターで同じメーターポイントを設定している
 - チャンネルストリップとトップパネル上部のメーターで異なるレイヤーのメーターを表示している
 - EQ や COMP などの特定の画面を表示している
- PM5D と DSP5D をカスケード接続して、PM5D のパネル操作の対象として DSP5D を選択している場合、COMP や GATE 以外の画面を表示している状態でチャンネルレイヤーを切り替えると、COMP/GATE が無いチャンネルの GR インジケーターが瞬間的に点灯してしまう不具合を修正しました。
- PM5D と DSP5D をカスケード接続して、PM5D のパネル操作の対象として DSP5D を選択している場合、以下のような条件が重なると、選択しているチャンネルとそのペアとなるチャンネルのパネルや画面の GR メーターが最大値を表示し続ける不具合を修正しました。この不具合を修正するためには、PM5D だけでなく DSP5D のファームウェアもアップデートしてください。
 - PAIR MODE が VERTICAL PAIR に設定されている
 - 選択しているチャンネルとそのペアとなるチャンネルの GATE や COMP がオンになっている
 - INPUT チャンネルストリップとトップパネル上部のメーターで異なるレイヤーが選択されている。

Firmware V2.23

修正した不具合

- OUTPUT ISOLATION 機能が設定されている MIX/MATRIX/STEREO チャンネルのパッチが、シーンリコールやファイルのロードによって変更されてしまう場合がある不具合を修正しました。
- エフェクト/GEQ モジュールのパッチが、MIX/MATRIX/STEREO チャンネルへのインサートから INPUT/STIN チャンネルへのインサートに変更されると、画面上にパッチ設定が表示されない不具合を修正しました(表示だけの不具合です)。
- SECURITY 画面の LOCK PARAMETER SELECT 欄で、GEQ モジュールがインサートされているチャンネルを含む INPUT PATCH または OUTPUT PATCH をロックしても、GEQ モジュールのパッチが変更されてしまう場合がある不具合を修正しました。

Firmware V2.22

修正した不具合

- PM5D どうしをカスケード接続している場合、カスケードマスターとなる PM5D に接続された GPI 機器からのトリガー信号で両方の PM5D でシーンリコールすると、まれにカスケードスレーブだけシーンリコールされないことがある不具合を修正しました。
- PM5D V1 で作成したデータを PM5D V2 にロードすると、画面表示には正しく反映されますが、INPUT/OUTPUT PATCH、MIDI CONTROL CHANGE などの設定が画面どおりに動作しない不具合を修正しました。
- PM5D と DSP5D のカスケード接続を有効にすると、DSP5D のメモリーが一部消去される場合があるので、確認のメッセージを表示するように修正しました。PM5D に空のシーンがあると、DSP5D 上の同じ番号のシーンは消去されます。シーンに関連しないライブラリーは、PM5D のライブラリーデータが DSP5D に送信されて上書きされます。
- PM5D と DSP5D がカスケード接続されている場合、INPUT チャンネルストリップと STIN チャンネルストリップで異なるマシンのレイヤーを選択していると、パネル上のエンコーダーの PAN 表示やネームインジケータの輝度などが正しくなかったり、MIX セクションのエンコーダーで ST IN から MONO バスへのセンド操作ができないなどの不具合を修正しました。
- PM5D どうしをカスケード接続している場合、DCA グループや MUTE グループをカスケードリンクしている状態でシーンリコールすると、画面とパネルの表示が一致しないことがある不具合を修正しました。

Firmware V2.20

修正した不具合

- 2 台の DSP5D をカスケード接続(PM5D-DSP5D-DSP5D、PM5D-DCU5D—DSP5D-DSP5D、PM5D-DCU5D—DSP5D-DCU5D—DSP5D)して使用できるようになりました。
- カスケード接続している DSP5D に対して、現在の DSP5D と異なる CASCADE TYPE やワードクロック設定を含むファイルを正しくロードできない不具合を修正しました。
- PM5D と DSP5D がカスケード接続されている場合、カスケード接続が無効のときは DSP5D のバージョンと内蔵バッテリーの状態を表示しないように変更しました。この変更は、カスケード接続が無効な場合に DSP5D の内蔵バッテリーが「No Battery」と表示されてしまう不具合に対応したものです。
- PM5D と DSP5D がカスケード接続されている場合、マスタークロックとして選択できないワードクロックソースは WORD CLOCK 画面で選択できないように修正しました。

- DSP5D の内蔵メモリーの初期化が完了したときに、電源を入れ直すまで一番左の OUT [TX] LED が点滅し続けるように変更しました(今までは約 10 秒で消灯していた)。また初期化中は、4 つの LED が左から順に繰り返し点灯するように変更しました(今までは 1 度だけ点灯していた)。
- カスケード接続が有効な状態で電源を切って入れ直したときに、自動的にカスケード接続が有効な状態に戻るように変更しました。カスケード接続が有効になるまでは、「Waiting for Auto Cascade Sync.」のメッセージが表示されます。この動作をキャンセルしたい場合は、マシン#1(PM5D)を選択して CASCADE ENABLED/DISABLED ボタンでカスケード接続を無効にしてください。
- PM5D-RH に AD8HR を 5 台以上接続した場合、長時間経過すると AD8HR との接続が切れたり AD8HR のゲイン設定が 6dB ステップに変更されたりする不具合を修正しました。
- PM5D と DSP5D がカスケード接続されている場合に、シーンをリコールしてから反映されるまでの時間を改善しました。
- FADER ASSIGN 画面のフェーダーレベルが実際のレベルと異なる場合がある不具合を修正しました。
- PREVIEW 中に MIX チャンネルのペアを設定してシーンにストアした場合、そのシーンをリコールしても CH to MIX や MIX to MATRIX のパラメーターが正しく反映されない不具合を修正しました。
- 内蔵エフェクトを GEQ モジュールに変更するシーンをリコールしても、リコール前のエフェクトがかかったままになることがある不具合を修正しました。

Firmware V2.11

修正した不具合

- カスケード接続が有効な場合でも、グローバルペースト機能が動作するようになりました。
- カスケード接続が有効な場合でも、シーンストア/リコールのアンドゥ操作、およびシーンのエディット操作(インサート、カット、ペースト、クリア)が動作するようになりました。
- シーンのエディット操作(インサート、カット、ペースト、クリア)を数回行なうと、シーンリストに表示されているシーンのリコールやエディット操作ができなくなる可能性がある不具合を修正しました。
- PM5D のパネル操作の対象としてマシン#1(PM5D)以外を選択している場合でも、フェードタイム設定を含むシーンをリコールすると、フェーダーはフェードタイム設定どおりに動作するようになりました。
- MY16-CII カードを経由する DME コントロール機能が動作するようになりました。
- ユーザー定義キーに DIRECT RECALL 機能をアサインしてシーンリコールした場合、アンドゥが動作しない不具合を修正しました。

- 内蔵エフェクトを GEQ モジュールに転用した場合の不具合を修正しました。
- PM5D--DCU5D--DSP5D のカスケード動作時に、ネットワーク障害などで接続が一時的に切れた場合、ネットワークが回復してもまれに接続が復旧しなくなる不具合を修正しました。

Firmware V2.06

修正した不具合

- [不具合症状]
 - 事項に示す条件下で、"AD IN 4" をパッチした入力チャンネルのパッチ設定が解除されてしまいます。このため、そのチャンネルの音声信号は止まってしまいますが、入力パッチの画面では、パッチ設定は解除されていないように見えます。
- [発生条件]
 1. EFFECT PARAM(エフェクトパラメーター)画面、あるいは EFFECT ASSIGN(エフェクトアサイン)画面で、エフェクト 1~8 のいずれかの出力パッチ欄が空欄(何もアサインされていない)の状態。
 2. 上記出力パッチ欄の設定が、空欄から、いずれかのチャンネルがアサインされた状態に変化すると、不具合が発生します。

V2.05 の主な新機能

基本機能およびパネル操作

- 1. DSP5D を PM5D のパネルからコントロールできるようになりました。
- 2. FADER MODE セクションで選択したチャンネルのオン/オフが DCA [MUTE]キーで操作できるようになりました。
- 3. FADER [FLIP]キーがオンの場合でも、MIX バスに送り出す信号のパンや、ヘッドアンプのゲインやアッテネーターをエンコーダーで操作できるようになりました。
- 4. NEW を選択してシーンをストアするときに空きのライブラリー番号がない場合は、既存のライブラリーを上書き保存しないように、シーンが保存できないようになりました。
- 5. 画面上で操作できるパラメーターとして MONITOR LEVEL と CUE LEVEL が追加されました。これらを DCA ストリップのフェーダーにアサインしてモニターやキューのレベルを操作することができるようになりました。

EFFECT ファンクション

- 1. Add-On Effects (COMP276/276S、COMP260/260S、EQ601、OPEN DECK)と DE-ESSER が追加されました。
- 2. EFFECT ASSIGN 画面および GEQ ファンクションの GEQ ASSIGN 画面に DSP CONFIGURATION オプションが追加され、内蔵エフェクト 1~8 をグラフィック EQ またはパラメトリック EQ として使用できるようになりました。
- 3. EFFECT PARAM 画面で、パネルの[SEL]キーを押した場合や、各種リンク設定により[SEL]キーがオンになった場合は、そのチャンネルにインサートされたエフェクトモジュールが自動的に選択されるようになりました。
- 4. EFFECT PARAM 画面で、タップテンポ機能を使ってテンポを設定したあとに DELAY パラメーターを変更しても、テンポが変わらないようになりました。

GEQ ファンクション

- 1. GEQ PARAM 画面にオプションが追加され、グラフィック EQ をパラメトリック EQ に切り替えられるようになりました。
- 2. GEQ PARAM 画面で、パネルの[SEL]キーを押したときだけでなく各種リンク設定により[SEL]キーがオンになったときも、そのチャンネルにインサートされた GEQ モジュールが自動的に選択されるようになりました。
- 3. GEQ PARAM 画面で、GEQ をインサートすると自動的にそのチャンネルのインサートインがオン、GEQ を外すとオフになるようになりました。

SCENE ファンクション

- 1. SCENE 画面で、メモリーカードからシーンを読み込んでも上書き保存されない「読み出し専用」シーンを設定できるようになりました。
- 2. SCENE 画面に DELAY 欄が追加され、シーンリコール時に送信されるプログラムチェンジや MIDI イベントのタイミングを設定できるようになりました。
- 3. SELECTIVE RECALL 画面および RECALL SAFE 画面で、リコールの対象/除外を設定するチャンネルパラメーターとして ON パラメーターが追加されました。
- 4. SELECTIVE RECALL 画面および RECALL SAFE 画面に OUTPUT ISOLATION 欄が追加され、通常のリコールセーフ機能とは別に、リコール対象から除外するアウトプット系チャンネル/パラメーターを SETUP メモリー(メモリーカードでのロード対象に含まれない)に記憶できるようになりました。

SYS/W.CLOCK ファンクション

- 1. MIXER SETUP 画面に VIRTUAL SOUNDCHECK ボタンが追加され、リハーサル用にインプットパッチを一時的に変更できるようになりました。
- 2. OUTPUT ATT PORT 画面に ϕ (位相)ボタンが追加され、アウトプット系チャンネルおよび I/O チャンネルの出力ポートごとに位相の正相/逆相を変更できるようになりました。

UTILITY ファンクション

- 1. PREFERENCE 1 画面に DCA MUTE TARGET オプションが追加され、DCA [MUTE]キーで MIX バスへの送りをミュートするように設定できるようになりました。
- 2. PREFERENCE 1 画面に ATT OPERATION ON PANEL オプションが追加され、パネルのエンコーダーでアッテネーターを操作できないように設定できるようになりました。
- 3. PREFERENCE 1 画面に MIX SEL/ENCODER MODE LINK オプションが追加され、MIX チャンネルの選択と MIX SEND SELECT キーの選択が連動できるようになりました。
- 4. USER DEFINE 画面で、ユーザー定義キーに割り当て可能な機能として、DSP5D CONTROL や ENCODER MODE KEY などが追加されました。
- 5. FADER ASSIGN 画面にオプションが追加され、STEREO/DCA ストリップセクションでモニター/キューのレベルや ON/OFF 設定を操作できるようになりました。
- 6. FADER ASSIGN 画面で、DSP5D の任意のチャンネルも割り当てられるようになりました。
- 7. SECURITY 画面で LOAD LOCK 機能が追加され、各種ファイルがロードできないように設定できるようになりました。
- 8. SECURITY 画面に RECALL LOCK オプションが追加され、ロックしたパラメーターはシーンやライブラリへのリコール操作でも変更されないように設定できるようになりました。

インプット系/アウトプット系ファンクション

- 1. OUTPUT PATCH ファンクションの OUTPUT PATCH 画面で、MIX OUT 端子 1~24 へのアウトプットチャンネルのパッチも変更できるようになりました。
- 2. OUTPUT PATCH ファンクションの INSERT POINT 画面および INPUT PATCH ファンクションの INSERT/DIRECT OUT POINT 画面に SET ALL ボタンおよび CLEAR ALL ボタンが追加され、すべてのチャンネルで一括してオン/オフできるようになりました。

- 3. INPUT VIEW ファンクションの CH JOB 画面で、チャンネル設定のコピーだけでなく移動もできるようになりました。
- 4. INPUT PATCH ファンクションの INSERT/DIRECT OUT POINT 画面で、ダイレクト出力の送出位置として PRE ATT が追加されました。
- 5. PAN/ROUTING ファンクションの MIX SEND VIEW 画面で、MIX バスに送られる信号の送出位置 (PRE/POST)がバーグラフの色で判別できるようになりました。
- 6. インput系チャンネル、アウトput系チャンネル、および GEQ モジュールにあるパラメトリック EQ の Q が 16 まで設定できるようになりました。
- 7. インput系チャンネルの GATE のスレッシュホールドレベルが-72dB まで設定できるようになりました。